明治廿五年四月三十日印刷
明治廿五年四月三十日出版

婦人衛生會雜誌

第貳拾九號

（非賣品）

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生會雜誌

第貳拾九號

目次

◎演說
◎民間療病法の利害　醫學士　岡田和一郎君
◎育兒論　寺田勇吉君
◎衛生叢談
◎母つとめ
◎本會錄事
◎會告數件

本會規則摘要

◎本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開き隨て社會全般の幸福を增進するにあり

◎本會は每月一回第一土曜集會を開き諸大家を聘し講義演說を囑し會員は勿論同親族知己の傍聽を得せしめ又之を筆記して每月會員に頒つ

◎本會會員を分て終身特別通常學生男子贊成員とそ

◎終身會員は入會の節金拾圓を収むる者特別會員は每月貳拾錢以上通常員は同拾錢學生其他事故ある者は會費五錢とし男子贊成員は每月拾錢を納むる者とす

◎入會せんとする者は何人を論せす族籍住所姓名を記し下谷練塀町四十二番地事務所へ御申込あるべし

下谷區練塀町四十三番地
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌第廿九號

明治廿五年四月廿九日發兌

講演

◎民間療病法の利害

醫學士　岡田和一郎君

私の演説は「民間療病法の利害」と云ふので、些と六ヶ敷い問題で御座いますが、此の事は前より一度聞いて戴かなければならんと考へて居ッた事で御座いますから、暫らく皆様の御耳を拝借して此事を申上ます。民間の療病法と云ふは、どんな事かと申しますれば、元來病氣と云へば醫師が診察をして藥を與へて癒すのが當り前で、又是が一番確實な危險の無い事で御座います。併しながら醫師でなくして藥を飲せ、醫師でなくして病を癒そふとする者がありますが私は之れを民間の療病法と名けます。然して此事は果して良い事か、惡い事か、良い事なれば遣ッても宜しい、惡い事なれば遣ッて宜しくないと云ふの利害を申上げやうと思ひます。

何故私は此事を、婦人衛生會貴女達の御集會の席で申すかと云ふに、實に御婦人は、一家内に於ては最も勢力のあるもので、單に御自分の病氣ばかりでない其お子さん御良人等が御病氣であッた時、之を看病するのは婦人の役、從つて其病氣を治療する方法に於ても、實に婦人方が大變に勢力の有るもので御座います、一寸假令て見ますると、貴き人或は學問の有る人には無いけれども、下々に至ッては、病氣等のことに關しては男の方よりは婦人の考への方が余計であります。子供の病氣、亭主の病氣に當て。若し其家の妻君が西洋醫師を好む人で有ッたなら、必らず西洋醫師の藥を飲せて、治療するに違ひない。併しながら若し其婦人が漢方の醫師が好きであッたなら必らず其病人は漢方醫に掛ッて、煎藥抔を飲み

其病氣を治療せる。又其婦人が醫師が嫌ひで、神佛を信仰し、何事に依らず神佛に祈願する人であッたならば、先づ醫師に懸けるよりは、神樣に願ひ、佛樣に祈禱する方が好いと云ふ考へを第一に起し、醫師は貴いものであるけれども、其人の眼には、神佛の方が効驗が有る樣に思ふて、先第一に神佛に祈願を致します、又妻君が賣藥好きであッたなら、前に立派な醫師が有ッても、便通が無いから通丸を買て飲せ抔して、それでどうしても癒らない時に、始めて醫者に懸ける者が世間には往々有ります、其外鍼術者、灸點者との云ふは皆な病氣を癒そふとする營業者で御座いますが若し之等を好む婦人であれば、鍼は結搆で有る、灸點は結搆であると云ふ考へを以て、醫師に掛ける前に先づ素人了簡で之を試み、それで往けなかッた時に初めて醫師に掛ける、乃ち醫者が見離す樣に惡くなッた後に、醫師に診せる樣なものが隨分あります、必ずさうとは云へませんが、世の中には女の勢力の强い爲めに、醫師にかける事をせず、神佛或は賣藥祈禱鍼術灸點との云ふ樣な事を先づ前にして、愈々危急に迫ッてから始めて醫師に診せる人が澤山あります。併し斯くの如き事は、良い事か惡い事かと云ふと考へて居ッたなら、後に悔悟する樣な事は無からうと思ひます。それじやからして一家内の病人の有ッた時に、家政を司る所の婦人の思想は斯くの如く勢力のあるもので御座いますから、其婦人の思想が理屈に叶ッて居ッて病人等を扱ふのに一ツも傍から叱言を云ふに及ばぬ位ゐの考へであッたならば、其家の倖は大きいもので御座います、其細君の支配に從ッて往く所の家の中の幸福と云ふものは、實に夥しいけれども一歩間違ッて、其細君の思想が非常に理屈に違ッて居ッて、醫者或は識者が見て尤も惡い思想を以て、其一家内

を支配して往ッたならば、實に其不幸と云ふものは云ふ事の出來ぬ位ゐ大きいものであります。何故なれば其細君が間違ッた所の思想を以て、夫の病氣子供の病氣等を處置しますから、死なゝいでもよい夫が死に、子供が死ぬと云ふ不幸に陷る事が有るかも知れません、偖此婦人衛生會にお出になる貴婦人達は、素より衛生に熱心なるお方々でありまするから從ッて斯くの如き貴婦人方に治めらるゝ家內は、衛生々々と云ふ事が主になッて居り、又醫師の申す事も、充分御心得になッて居られますから、其一家內は尤も長壽とせらるゝ樣な結果に爲る事は、萬々信じて疑ひません。又斯くの如き方には惡い事も有りませんから、別段お噺しをするにも及ばないと思ひますけれども、盲目千人の世の中で、世間の人が皆な衛生會員の樣に理屈の解ッた方許りならば、決して衛生演說抔をするには及ばないが、譯の解らないものが多いので御座いますから、私が今日申し上げる事抔は、疾くに皆さんは御承知で御座いませうが之れをお聞きになりて世間の解らないかんがへを持て居る人を、善い方に導いて下されんことを希望致します

扨民間治療法と申します前に、病氣と云ふ者の大体を申して置かうと思ひます、病氣と云ふものは、決して一通りのものでは無い、其數は昔しは四百四病と云ふたけれども、今日は中々四百や五百ではない數千もある。其數千もある病氣は、毎日々々一ッの形で有るかと云へば、決して同じものでは無い、病氣と云ふものは、始終變じて居る、一寸感冒いても或ひは大變好い時もあるし、又大變惡るい事もある時々刻々に依ッて、大變病氣の容体が違ひまする故療治するにも一通りの方では往かない、種々の方法に依ッて療治しなければならぬ。それゆへ醫師もで

く上手な人は、藥を遣る斗りを決して尊ぶのではない、醫師と云ふものは克く該病を診て、其病氣の摸様から今は一番何處が苦しいかと云ふ事を、細かに順々に診てそして藥を飲ませる、それゆへ醫師の方では診斷を大切にして置くので有る、診斷を付けた上藥を遣るのを醫師の務とする。是は世界中、何國でもそうですが、診斷と云ふ事を確かにして、そして後ち適當の藥を與へ或は法を施すもので有りますさう云ふ譯であるから「醫者に診て貰ふのは決して必要で無い、藥さへ飲めば良い」と云ふ事を、世の中の人は思ふて居りますが、藥を飲む前にからだの中のどこが悪るいかと云ふ事を確めた上で、飲まなければ好いと思ッて飲んだものが、却て害を為すやうな事が有りますから、克く氣を附けなければならぬ、然るに此日本に尤も多い所の民間の療治法は、如何なる事で有るかと云ふに、大体から見ると皆な此原則に違ふたるもの計りであります。そこで民間治療法で勢力を得て居るのはどんなことで有るかと云ふに、先づ神様と佛様です、是は立派な人には左程ありませんが、下等の人は宗教に熱心する余り、色々の妄想を懐いて、病氣と言へば醫師や藥よりは先づ第一に神様か佛様に祈禱して、そして其祈禱に依て病氣を癒さうと云ふのが下等社會に勢力を得て居る様です。随分例が有る事ですが、眼が悪るいと、藥師様に願を掛けて、藥師様の前に在る手洗ひの穢い塵芥だらけの水を眼に付けて敢て他を顧みず自分から眼の潰ぶれるのを待ッて居るものがありそれから又お産をするのでも、直ぐに鬼子母神さんにお願をかけるがお産が重いか軽いかと云ふ事は、産科の醫師に聞いて見れば直ぐ解かる、どんなに鬼子母神に願を掛けても重いものは重いに違ひない、それに反して當り前の人間の体格を持ッて居ッて胎兒

の位置も宜かッたなら、鬼子母神さんもなんにも入らない其お産の輕いとは始めから定まッて居る事で有る、それだのに世には鬼子母神樣に願を掛けさへすれば、胎兒の位置が横で有らうが、轉倒で有らうが、一向頓着しない人が幾らもあります。或は病人が將に死なんとする時に臨んで、一も藥を與へず、黑住樣に供へた水を飲ませる、それも奇麗な水ならまだ宜いが、塵芥だらけの不潔い水を持て來て飲ませ、又甚だしきに至ては、本願寺邊の坊主樣の湯浴したお湯を汲んで來て飲ませる、實に宗教に熱心なるものには意外なる事が大變に有ります。併しながら私は宗教を嫌ふと云ふ譯ではない、宗教は社會に大變必要なるものである、道德上に社會上に共に利益の有るもので、神樣や佛樣を信ずるのは實によい事であるが、余り迷信し過ぎて、是を病氣にまで及ぼすものは善くない、又神樣も佛樣も之が本意ではなからうと思ひます。又本願寺の僧侶さんが自分の沐浴した湯を飲めと云ふのではない、世間の解からぬ人が必らず宜いだらうと思ッて飲むのである、藥師樣とても穢い水で眼を洗へと命令した譯では無いが、人が解らぬ故に其穢い水を眼に附けるので有ります、黑住樣のお水も同樣で有ります實に神佛を信ぜねばならぬもので有りますが、それを濫用すると利益無くして却て害になります、なぜかと云ふに只今申したのは一二の例で御座いますが、それ等の汚穢ない水を分折して見ると其中には空氣中にあるバクテリーと云ふ虫が大變這入ッて居る。其虫と言ひ塵芥と言ひ、人間のからだに這入ッたなら大變に惡い。今の世の中は昔と違ッて眼病抔は別して宜く洗はなくてはならぬと云ふ位ゐで有るのに、自分から好んで塵を眼の中に入れる、角を矯して牛を殺すと云ふは此事で有る。さう云ふ風に神佛に備へたる水

も汲み立てた物ならまだ宜いが、浴湯みとしたり或は塵芥の這入ッたりのを、態々取ッて來て飲むと云ふは、其害は甚だしいものである、其上に神佛に托して肝心の治療の遲れると云ふ害がある、神樣や佛樣が無かッたらば、直ぐ醫師に掛りませうが、神佛に托した爲め療治が遲れる場合が澤山あります。治療の遲れたのは、病人自身に取ッては大變不幸せであるし又斯う云ふやうな大病人とも、神樣や佛樣に祈願して醫師に掛けないと云ふ樣な婦人に治められたる一家内の不幸は實に大きなものであらうと思ひます、昔の人は痘瘡神樣だとか云つて、赤い物とかけて見たり、願を掛けたり色々な眞似をやりますがどんなに祈願しても痘瘡をするものは疱瘡し、命を落すものは落します、けれども英國の醫師のゼンナルと云ふ人が種痘を發見してよりは、皆一樣に種痘で濟むやうになりましたから、此點に關しては神樣の力よりは醫師の力の方が遙かに勝て大なる事は明かであります。併し私は斯う云ふたからとて、神佛を信じては悪いとは決して言はないが、先づ餅屋は餅屋だから適當の醫師に掛けて、治療をするのを先きにし、然る後ち神樣なり佛樣なりに祈願したならば、只今申した樣な不幸に遭遇する事は無からうと存じますから、此事を世の迷信者に忠告しやうと思ひます。

其次に只今申したよりは少しは好いが、同じ樣な民間の治療法が有る。それは何かと云ふに灸點とか鍼術だとか云ふ事で有る併し灸抔は私共でも現在灸を据える事もあり、或は鍼按摩等も時に依ッて、病人に勸める事もありますけれども、世の中の人達は頭痛がするから灸腹が痛むから鍼と云ふやうに、無暗に施すのは大變に害が有らうと思ふ。何故害が有るかと申しますれば、是も矢張り神や佛と同じで、世

の中に灸點とか鍼術とか云ふものが無かッたから詐しまぎれに藥を請求するけれども、斯う云ふ事が有ると、鍼を頼み按摩に揉ませ「それ脚氣が起ッたから灸點をする」と云ふ樣に何の病氣か分らないのに自分で自分の病氣を診斷して、民間治療を扱ッて居る人に施して貰うから實際脚氣でも無いものを脚氣として、すゑんでも宜い處に灸をすゑ、さゝいでもよい所に鍼をするものが世の中に多いやうで御座いますが、さう云ふ事としては、其弊害と云ふものは實に名狀すべからざるものである。併し私は灸點者鍼術者も世の中の營業者で、是に依て生活して居る者であるから、決して彼等を誹謗するのではないが私は醫師にして自分の職務を保護するので、即ち是等の人が醫師の職にまで這入ッて居ながら私しは醫師の職分として申し上げるまでの事で御座いますが實に是が爲めに受ける弊害が來るのも、矢張り角を矯して牛を殺すと同じ樣な結果が有りませう。それはどんな事かと云ふに、外科醫師が鍼をさすには、其鍼に毒が附いて居ては大變に危險だから、鍼をさそ前には必らず強い石炭酸に入れて、鍼を消毒してさすけれども、世の中の鍼術者はどうで有りませうか消毒をしない位ならまだ宜いが、さす前に汚れたる指でさすッたりして、消毒等の事は少しも顧みない若しさう云ふ風に鍼をさしまして、其鍼に虫が付いて居りましたら、不潔物をからだの中に殖やすと同じやうな結果を生ずる此間も或人が腹に鍼をさした爲め腹膜炎と云ふ瘀衛を起し、殆ど一命を落さうと云ふ危險に陷ッた。又一人は小便袋(膀胱)に鍼を打ッたので、小便の中に膿が大變出て、とう〱危き位地に立至ッたのを見ましたが、是等は鍼を打たなければ、斯かる事はなかッたのですが、全く穢ない物の附いた鍼をさした爲めです、

灸點も療治法にしては、大變に宜い我々も大變に宜しい事と思ふから、塲合に依ては人に勸める事もありますが、併し素人考へで無暗にするのは燒傷として放ッて置くと同じで、其傷に空氣中の穢いものが這入ッて、思はぬ害を惹き起します。今も病院で「サンリ」に灸をすゑた爲め、此方(右足)の足が大變に腫れて、ことによると足を截てゝ仕まはなければならん樣になッた病人を見ましたが灸として傷が出きた時は繃帶を掛けて置くならば宜しいが、やみたら燒傷させてそれぎりで放ッて置くと大變に害になります、それゆへ民間治療法も遣りやうが宜ければ結構ですが、惡い時は大變に害を起します。それ故是は全体から見ては惡い事では無いが、世の中の人が病氣だから鍼をうたうと、素人考へでやるのは大變に惡いから、第一に醫者に診て貰ッて、此病氣には鍼を打ッても宜い、併し打つには斯うすると好いと云ふやうに醫師の考へからするのなれば、惡い處では無い大變に良いと思ひます。併し前にも申す如く素人考へでは大變に惡いと思ひます。

次に賣藥……是は神佛や灸點鍼術等よりは良い事です、此賣藥と云ふものは、世界中尋ねても日本程賣藥の多い處はなからうと思ひます、新聞紙の廣告は殆ど賣藥の廣告で滿て居る位ゐに大變あります、此賣藥を、良いとの惡しいとか論ずる段になると、面倒で御座いますから、さう深くは申しませんが、全体の病氣の上からは大變に惡い。數年前に時事新報が「賣藥は少しも利きもせぬけれども、又害も無い水の如き物だ」と云ふ事を社説として論じた爲め、賣藥營業者より訴へられ、長い間裁判沙汰になッてとう〳〵時事新報は閉口した事があります、故に私は賣藥に向ッて深い批評を下さぬ斗りで無く、賣藥は利きもせず惡くもなき水の如きものとは言はない

賣藥も場合に依てはよく利くものである、下劑の賣藥がありますれば、それを飲めば必らず下だる、熱冷しと云ふ賣藥があれば、熱の出た時にそれを服用すれば、必ず熱が冷める、唯だ一ッ二ッに限らず、總じて賣藥と云ふものは、能く利くものであると云ふ事は明かであります、若し賣藥が少しも利かぬものであッたならば、——時事新報が前に云ふた通り水の如きものであッたなら——却て害は無いが、賣藥は能く利くものであるから、病人に用ゐては大變に惡いと思ひます。何故かなれば、最初に申した通り、病氣は千種萬別で。千も萬も有る、又同じ病氣でも時々刻々に病氣の容体と云ふものは違ふもので有るそれだから、必らず最初に醫師が此病氣は何病であると云ふ事を診て、此病氣には之を飲ませれば好いと云ふ事を篤くと見た上で、相當の藥を與へ、容体の違ふに因ッて藥の調劑も違へて盛りますが賣藥と云ふものは何時までも經ッても同じ分量の藥だから、一ッ藥を色々容体の違ふ病氣に用ゐたならば大變に惡い結果が出て來るに相違ない。又通じがないから下劑を飲ずと云ふは素人の早考へでありますが通じが無いから賣藥者から買ッて來て飲むのは、成程時に依るとそれで通じが付く事もある、けれども獨りの人には付いても、外の人はどうしても通じが付かずして却て苦しくなることがありませう。それは何故かと云ふに便通の無いのはお腹の中の消化が惡くッて、排泄物を体外に出す力の無い時は通じが無いし、又は通じの付く管に何かつかへて居ッて管が狹くなッた時も通じが無い、一言に通じが無いと言ふても其便秘する譯は一樣では無い、いろ〳〵理由があります、若し穴が塞がッてそれが爲め通じが無い時に、上から下劑を以て幾ら通じを付けやうと思ッても、出るものではない、通じを付ける處の藥を用

ゐた爲めに却て非常に苦みを增すとがありまするから消化が惡い爲め便通が無いか、或は管が塞がッて居る爲めに通じが無いのかと云ふ事を能へ診て貰ッて下が塞つて通じが無いのならば開けて貰うが宜しいさう云ふやうに見極めが付いたならば藥を買ッて來て飲んでも宜しいが、只無暗に賣藥を飲んだなら非常な弊害が有るかも知れない。世の中の賣藥者が病人を診て、お前の病氣は斯う〳〵云ふ病氣であるとか、或はお前の通じの無いのは、下が塞がッて居る故であるとか、云ふ事を見極める力があれば宜しいか、世の中の賣藥者は病氣を見定める程の力は無いよし有ッたにしても、賣藥者が病人の脈を取ッたらそれこそ犯則で、法律の許さぬ處でありまするから、如何に力が有ッても之を爲してならば、法律に背いた罪人であります、故に賣藥は大變能く利くけれども、素人考へで買ひ藥をしては、時に依て幸ひに能い事もあるけれども、全体から云へば害が有る、先づそれより醫者が澤山あるから、其醫者に付て藥を飲んだ方が宜しからうと思ひます。此場合に於ても前と同じ樣に賣藥抔に委ねて置く爲め、時が遲れるそれのみならず前に申した樣な弊害がありますから若しも世の中にかゝる事を信用して居るものがあッたならば、能く前に申上げた譯を御說明なすつて止めて置なければなりませぬ。此外に民間治療は大變ありますけれども、余り長くなりますから、今日は是丈けに致して置きます。

之を總括して見ると、世の中に病人があッても、素人考へに神佛に祈願するのを前にして、醫師を後にする人が多く有りますが、是は大變に惡い事ですから、病氣の時は第一に醫師に就き、それと同時に神佛に願を掛けて祈禱するが、宜しいと言ふ事。又病氣と言へば、必らず灸點、鍼術、按摩を用ゐますが、

之は決して惡るい事では無いが、是れ許りを用ゐて醫師にかゝらないでは大變に惡いから、最初に醫師に懸り、私は灸をすゑたいがどうであらう、鍼をしたいがどうであらうと云ふ事を相談して、醫師の指揮を受けて後に之を行なッたならば、決して惡い事は無からうと思ひます。次に世の中に賣藥を信仰する人がありますが、前に述べたやうな害があるから其以前に醫師に診て貰らッて、然る後に之を飲んだならば、後に憂ふるやうな弊害は必らず無からうと思ひます、鳥渡此事を申上げました。

◎育兒論

此篇は寺田勇吉君が明治廿五年二月廿七日大日本私立衞生會の常會に於て演說せるものにして育兒上參考とすべきもの尠なしとせず乃ち玆に之を轉載すると左の如し

私は隨分長い間、本會に會員でありまして、隨ッて會員たるの權利を持ッて居る、併ながら權利を持ッて居るだけで、自分が會に對する所の義務の全部を、未だ盡したといふ譯には行きませぬ、斯う申すと諸君の中には、或は寺田は本會から會費の催促でも受けては居らぬかといふ、お疑があるかも知れませぬが、マサカそういふことはありませぬ、一体此會ばかりで御座いませぬ、凡そある會の會員となッて居る以上は、唯會費を納めれば、夫れで事が濟むといふ譯ではなからうと思ひます、會員は會費を納むるは無論、又相當に會の爲めに盡力し、一方には會の隆盛を圖り、又一方には此會で申せば、我同胞四千萬の益々健康となることを冀はなければならぬと思ひます、私は前にも申しました通り、長らく此會の會員ではありますけれども、本日始めて此席に出席して、諸君にお目に懸るとは、甚だ愉快のことと自分

は考へます。

諸君、私は是より本論に移りて演べやうと思ひますが、倘ほ其前に一寸お斷り申して置きたいことがあります、其は餘の儀でもありませぬ、此に掲げてあります演題のことであります、私は諸君にも御存知の通り醫者でありませぬ、故に醫者のことは少しも知りませぬ、少しも解りませぬ、知りもせず解りもせぬ癖に、育兒論などとお醫者樣のお話にでもありさうなことを以て、今日の演題と致しましたるは、一寸嗚呼の樣なれど、私が是からお話申さうと考へましたことは、お醫者樣流のことではありません、卽ち私は專ら統計と敎育とを論據として、育兒のことを申します、お醫者の方からお聞きになッたら詰らぬといふと思はるゝことがあるかも知れませぬが、何分醫者でありませぬから、其邊の所は豫めお斷り申して置きます。

さて歐羅巴人と日本人とを較べると、ドウモ日本人の方が大そう弱い、一方から言ひますると、日本人は壽命が短い、又一方から言ひますと、ドウモ病人が多い、誠に悲しい次第であります、極近く一例を擧て見ますると、或る學校にては千人餘も居ります生徒の內、日々缺席をする者が必ず五十人位あります、以前缺席屆のことを嚴重にしてなかッた時には、もッと澤山ありましたけれども、今日は極めて之を嚴重にし、先づ本當の病氣か、さもなくば萬止むを得ざる事狀あるものゝ外は、缺席をすることが出來ないことになりました故、餘程減じました、それでもまだ每日五十人位あるのです、之を百分比例にすると、ざッと百人の中で平均每日五人づゝ缺席をする割合、卽ち百人の中で五人の病人がある都合になります、それから同校に日本の敎員が六十人居りますが、每日二人若くは三人——卽ち平均しますれば、二人五

分の缺席がありまして、百分比例と取れば百人に付いて四人づゝ缺席する譯になって居ります、先づ生徒の方に較ぶれば、百分比例で一分丈の教員の方か缺席が少ない。其一といふ差と假りに生徒の怠けるのとしそれで、病氣で出て來ない者が、先づ百人に付いて四人あると致します、又事故の爲め休む者がありますから、三人としましよう、それから雇外國人が七人居りますが、之れと見ると日本の教員若くは生徒と比較か出來ぬ、殆んど休むことがありませぬ。實に身体が强壯で容易に病氣に罹らぬ、私の調べました所では、先づ一ケ年に一人が二日か三日休む位で、極く少ない人は全く休まぬ、大變な差ひではありませぬか、そんなに外國人は身体が强いが併しそれが當り前なのです、然るに日本の教員でも生徒でも、一年に二三度休む人は、非常に健氣な人であるといふが、西洋人に較べると、一年に只二三度休むのは當り前であって、健氣でも何でもないといふ樣なものであります、斯くいふ差の起るのは畢竟誰の罪であるかといふと、其罪は兩親であります小學校幷に其教員も亦此罪を遁るゝ譯には參りませぬ、即ち兩親と學校と其先生とが、寄ってたかって我々日本人を弱くするので御座いませ……尤も他にも原因がありましようが、其の主なる原因は幼時に於ける體育法の不完全なると、學校の先生と兩親の罪とにあるかと私は思ひます、それから西洋諸國の有樣はドウかといふと——委しい統計上のお話しは略して簡單に申しますが——西洋の學校では一番休みの多い所で、二百人に付いて一人といふ割合であります、日本では百人に付いて三人ありますから、其差といふものは百人に付いて、二人半日本の方が多い、それ故に之を日本全國に付いて見ると、非常な相違であると私は考へます、皆さんもソウいふ感覺

が起るでありましよう、斯ういふ話をしたばかりでは左程とも思ひませんか、實際歐羅巴に至りて、日本人と歐人とを比較して見ると、誠に殘念に耐ぬことがあります、私も先達て一寸歐羅巴諸國を一見して參りましたが――歐羅巴へ行て見れば、隨分日本の人も行て居りますが――こちらに居ては左程とも氣が附きませねど、あちらに至りますと、はたの人が皆んな大きな良い身体で、強壯で御座いますから、日本人はトント病人の樣に見へます、又實際少し風が吹くと、直に風を引くといふ樣な鹽梅で、實に弱ひ、今日の有樣で行ッたならば、幾ら日本人の智能が進んでも、其原になる身体が弱くては。ドウにもコウにも仕方がない、今日では智育の方は大に進んで來ましたから。左程奬勵しなくとも良からうと思ひますが、兎に角體育を十分にし、國民の身体を健康にしなければ、是から先き我國の爲めに、實に心配のことと思ふの餘り、今日も諸君の清聽を煩はす樣の次第になりました、それで私は前にも申す如く、長らく此會の會員ではありましたけれども――此會からして演說として呉れといふ、請求を受けた譯ではありませぬ、通例の演說家は會から依賴を受けて演說をなされるが「私のは之れと反對で、自分の方からドウぞ饒舌らせて呉れと言て請求して演說する譯で御座いませ――シテ今日諸君の清聽を煩はす譯は、餘り日本人が弱いから、今の中にドウかしなければならぬといふ考へを持ッテ居りますが、迚も一己人の力の及ぶ所でありませぬから、諸君に訴へて衆力一致を以て、なんとか日本人の體格を良くしたいといふ考で御座いませ。

一体子供の死亡といふものは、青年以上の者と較べると大變多い、此多いといふものは諸君も十分御承知で御座いませう、又統計上から申しても、子兒の

死亡の多いことは——歐羅巴でもソゥで御坐いますが日本でも何處でも同じことで御坐います、其子供の死亡の多いことに就て、之れを區別すると二ッの原因がある、第一の原因はドゥもソゥ一寸取除くといふことが出來ませぬ、モゥ一ッの方は隨分人の注意次第で、取除くことが出來ます、斯う二ッの原因に分れて居りますか、其第一の方は容易に取除くことが出來ない——若くは取除けるには餘程骨が折れる、其重なるものは兩親の關係、及び其健康不健康といふことと　幷に兩親の生活の仕方です、兩親の生活の仕方が惡るい爲めに、壯健に生れる子供を弱くして仕舞ふ、一体子供といふ者は、至つて弱いものでありますから、兩親の罪ばかりでなくして、天然の力に抵抗することが出來ずして、一寸したことにも感じて死ぬることがあります、併ながら是れとても兩親の注意次第で、防ぐことが出來やうと思ひます、第二の原因の事に就きましては、後でお話を申すとして先づ今兩親の事に就て、一寸述べなければなりませぬが、兩親の關係といふ者は、子供の爲めに、種々の影響を及ぼすもので御坐います　（以下次號）

衛生叢談

婦人のつとめ

松野久良々夫人

却說。婦人の務に就て第一子供を敎へ育てるには。大概の人が。五歲か六歲許かなりて。始めて學校へ參ります時からの樣に思ひますが。決して左樣のものでは御座いません。最早生れて母親の手にある時から。始まらなければ爲りません。今より百六年ほど前に。獨逸のオーベル。ワイスバフと申す所に。フリドリーヒ。フリヨーベルと申す人がござりました。此人は子供の育方に就て。種々心を用ひまして。

そして其事について規則を立ました。一体此人はたいそう子供を愛しまして。殊に生れたちの赤兒を最も愛しました。終に一生其事ばかりに力を盡しました。其規則に從ひますれば。子供は遊びながら。自然と物を習ひ覺へるやうに。その母親が子供の遊びに能く氣を附けて。成丈け善き方に導き。惡ひ方に傾のないやうにしなければなりません。其の目的からして。ブリヨーベルは。幼稚園といふものを拵へました。幼稚園といふものは。子供の花園といふ意味でございまして。花園の花をよく咲しますには、植木屋が枯た枝や惡ひ葉は剪みとり。肥料を與へたり。又あらい雨風や雪霜のために傷められないやうに。いろ／＼手當をいたし丹精しなければなりますまい。その花にたとへたる子供を善く教へ育るにも矢張これと同じような理でございまして。その枯た枝や惡ひ葉を取り除るように。惡ひ事に傾く時は早く矯正し。また常に惡ひ方に傾かせぬ爲めに心を用ゐて。假初にも教になることを擇まなければなりません。併しながら幼稚園に行かない前に於きまして母親といふものはその子供を犬か猫の子のやうに、只養て擦たり撫たりばかりしないで。その子供の身か体の發育ちと精神の發育が同じやうに進み。育てかた一方に偏らぬようにするが大事でございます、總て子供には物事正しく定めてすることが一番肝心でございます。そこで乳を哺せるにも時を定め。その時が來なければたとへ泣ても哺せないやうにいたします。子供はお腹がへつたばかりではなく。退屈したり眠ひとき。或はお襁褓が濡た時にも泣ますものでございますから。子供は僅かの事にもくづ〻きます。そこで成丈けよき習慣をつけて。惡ひ習慣をつけないようにしなければなりません。假設ば子供の啼く度ごとに二三度ばかり抱き上げて。かれこれと

啼としづめたならば。何時でも誰か抱き上るまでは啼き止まぬようになります。一体子供の啼くのは多くは子供の爲めの運動となります。啼けば自然と肺臓がつよくなり。又胃の腑の機能も鋭敏なります。若しもそれになく度ごとに乳ばかりと飲したならばその時間も甚だ不規則となり。胃の腑の消化も次第に弱くなり。ついに病の原となります。只病の原となるばかりではございません。だん〳〵お行儀もわるくなり。若し母親が餘所に行く時は後を追ふたり又母親がその側に居なければ就眠ないようになります。何程稚く何にも分らない時でも。啼けば自分の望が叶ふといふ事と感じます。それが本となりて我儘がおこり易くなり。その性質は大人になるはど中〳〵なをらないものでございます。そこで子供を常にあちらこちらへ抱き歩行は善くございません。何故なれば子供の自由の運動を妨る道理となりますの

ら。若し子供がまだ稚くありまして。椅子の坐布團の上に坐つて居ることが出來ません時には。寐臺の上の或は坐敷の敷物の上に轉ばし。上から一ツの赤き鞠を子供の目より一尺ばかりへだて。胸のあたりにむかいて釣下げ。何か調子の正しき小歌をうたいながら。その鞠をあちらこちらへ振動します。然ますると子供が直に氣を付けまして。鞠の動く方を見ますから。自然と目の機能が鋭敏なり又一ツの目的を視定ることになれます。歌を聞ては調子を感じそのあいだ自然と樂しみて退屈を忘れます。その鞠の大きさはその子供の手に握りやすく。口へ入らな位ひにこしらへます。そこで段〳〵子供が大きくなるに從ひて。其鞠を自分で取ろうと試み。度〳〵試みるうちに。腕や足に力といれますから。次第にその筋や骨も丈夫になり。なみの抱きかゝへして育てたる子供よりは早く這ひ。又立つことも出來ますも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のでございませう。身体の強くなるばかりではございません。性質も自然と活潑になります。何故なれば早くより自分で獨立ことを習ひ試み。又獨でその目的に達したゆへでございます

（以下次號）

本會錄事

◎四月懇親會　四月三日小石川大學植物園に於て午前十時より本會春期懇親會を開く恰も當し此日や神武天皇祭日に際し來會者續々百二十餘人の多きに至る席定り盲啞學校生徒盲生の音樂六段之曲、改作松蟲、松風等其他數曲の合奏あり午時午餐を喫し一同庭園に出遊し三々五々相携へ或は樹下に或は丘陵に卓子の設くる處懇談數刻舊交の情を濃にし新知の歡を盡し午後五時全く散會せり

◎同日同會へ金圓の寄附を辱ふせし方々を列記し茲に聊か謝意を表す

一金壹圓　招待員　宮下俊吉君

一金壹圓　濱尾作子

一金貳圓　西外子

◎濃美震災過剰金之件に就ては先般既に本會雜誌第廿五號に掲載せしが右は愛知縣下罹災者孤兒の爲め日用必須の雜品數種調進寄送せしが時日を經過するも何等の回答なきを以て再三問合候處去月二十七日左之通謝狀及領收証添附せられ候に付乍延引茲に全文を掲げ御報道申上候

愛知縣義捐金寄贈品取扱委員よりの書翰寫

> 拜啓陳者貴會より縣下中島郡四郷村大字馬場鈴木ちう私生子つる外七名へ御寄贈相成候衣類等の領收證早速可差進筈之處大に遲延致候間再應本縣知事へ御申越相成恐縮之至に候右は過日鐵道廳之物品領收證御回送相成候間數日を經て名古屋鐵道廳へ受取人差

出候處未だ到着し居らさる旨相答候に付尚又數日の後同廳に到り取調させ候處同廳に於ては已に他の荷物と混同し配達致居たる旨申立候間種々取調候處全く到着致居候に付直に其際受領證等可差出之處其後右取扱主任の者他へ出張致し之が爲め遂に非常の遲延に渉り候次第に有之候間其邊御諒察不惡御承引被下度就ては受領證及知事よりの挨拶狀は本廳へ現品到着當時の日附を以て差進候間然樣御承知相成度別て此段當委員より申進候也

三月廿二日

愛知縣震災金義捐寄贈品取扱委員

大日本婦人衛生會々長加藤鈴子殿

愛知縣よりの謝狀及受領證寫

客年十月當縣下各地方震災之際兩親を失ひ孤兒と相成たるもの等救恤之爲め中島郡四郷村大字馬場鈴木おう私生子つる外七名へ衣類等八拾點御寄贈相成候段鳴謝之至に候就て日速に夫々配當方可取計候間然樣御承了相成度別紙受領證相添此段及御挨拶候也

明治廿五年二月三日　愛知縣知事千田貞曉

大日本婦人衛生會々長加藤鈴子殿

第二六一號

受領證

一二子縞	拾六反
一花色金巾	拾六反
一晒木綿	五反
一二子綿入	八枚
一シャツ	八枚
一股引	八枚
一足袋	拾六足
一女子帶	參筋

右正ニ受領候也

◎四月中入會者左の如し(御姓名御申込順)

會長加藤鈴子の紹介により

一神田區駿河台鈴木町十二番地　通常會員　松本なみ子
一麻布區三軒屋町二十八番地　特別會員　酒匂　治子
一芝區新錢座町　贊成員　檜山鐵三郎君

保育園岡田みす子の紹介により

日本赤十字社病院　俊野いわ子
仝　赤十字社病院　川勝ため子
仝　赤十字社病院　川村もと子

保育園委員小田よし子の紹介により

一京橋區疊町五番地　特別會員　安藤とく子

副會長濱尾作子の紹介により

一小石川區豐川町二十四番地　通常會員　寺田　恒子

保育園委員長與園子の紹介により

一神田區駿河臺北甲賀町八番地　通常會員　谷口清子

保育園委員加藤常子の紹介により

一麴町區五番町十二番地　特別會員　中橋恵津子
一麴町區元園町一丁目六番地　通常會員　名倉　鐵子
一京橋區築地居留地卅三番地　仝　ミスサンマース
一仝所　仝　リクサーマース
一麻布區永坂町六十五番地　仝　小倉すゞ子

四月三日春期懇親會之節入會

一麴町區元園町一丁目二十二番地　仝　小山田かち子
一京橋區三十間堀三丁目十八番地　仝　大野しげ子
一麻布區霞町一番地　仝　宮川みつ子

○左之地方入會員は先般幹事[illegible]高子三重縣へ歸省せられたる節非常に盡力せられ入會したる者也

一三重縣衛生會長　贊成員　門岡千別君
一仝縣養生學校々長　仝　川村　寛君
一　仝　山内　獲順君
一　仝　朝川　桒君
一仝縣津市新興町水沼方　仝　中里　榕助君
一仝縣津市茶屋町十二番地　仝　池上延二郎君
一仝縣洛市東掩校町古番屋敷　仝　今井　通君
一仝縣衛生會々長夫人　通常會員　門岡氏夫人
一仝縣養生學校長川村氏令孃　仝　川村　貞子
一東京京橋南鍛冶町十七番地　贊成員　山田大路元安

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

保育園設立趣意及規則摘要

夫れ母の赤子を乳養するは天性に出るが故に實母の乳汁を以て實子を保育する時は母兒共に大益ある事ながら其体質に由りては親ら乳養して却て母兒共に害が蒙ることあり其他不幸にして生母の早く世を去り或は哺乳乏しく又種々の已むなき事情ありて親ら乳養することの叶はぬ等の場合ありて生兒を他人に托し保育せしむる者あり是世に謂ふ里兒にして間々嬰孩育養の法に疎く夫が爲其兒の健康を害ひ遂に不治の病を醸すに至り始めて之を生家に告げ父母をして無念の感を起さしむる者少しとせず本會の深く杞憂する所なり茲に諸大家諸士の贊成を以て育兒の一法を設け食物衣服居間より 嬉戲玩弄の品に至る迄悉く衛生の原則に據り專ら慈愛の心もて委托を受し兒子を保育し若し疾に罹りしことあらんには小兒科專門の本園主任醫に診察を乞ふは申す迄もなく平素無病の時とても時々之に健体診察を受けしめ病を未萠に防ぎ健全に成長せしめんとす而して入園兒は生後三十日以上とし哺乳兒は乳母若くは精撰の牛乳を以て養育するを常則とす但し特別の他は望に依り相互協議の上乳母を選備する事を得入園料は特等一ヶ月七圓並等五圓とす目下欠員あり詳細の規則御熟覽の上速に御申込ありたし

麴町區一番町十二番地
大日本婦人衛生會附屬

保育園

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

靜修舍規則

第一章　總則

第一條　靜修舍は女子に必要なる技藝を講習し他日一家を整理するに適する性行を薫陶する所とす○第二條　教授の科目左の如し○一　裁縫（和服日本裁縫一式○二　調理法（日本料理）○但し裁縫及料理科に付西洋風を學ばんとの志あるときは多數を得て更に設くべし○三　女禮式（座作進退より日本普通女子の心得方等より漸次點茶插花の一を通り講習す但し花代は自辨とす）○第三條　修業年限は豫め之と期程せず一に修業者の志望に任す○第四條　授業時間は一日大凡七時と定む但し日の長短により伸縮することあるべし○第五條　入舍せんと欲するものは束修金一圓を添ひ左の書式に準し願書を出すべし（願書式は茲に略す）○第六條　入舍の許可を得たるものは左式の證書を出すべし○第七條　四科目講習料は一ヶ月貳圓毎月三日迄に納むべし○但し裁縫は日曜大祭日を除くの外教授す料理は寄宿生にかぎる○月謝　裁縫五拾錢○花五拾錢○茶の湯七拾錢○女禮式五拾錢○裁縫のぞくの外三科目習はんと欲する者には一ヶ月月謝壹圓五拾錢とす○右教授三輪松琴亭（）科目日定　第一木曜日（花）○第一土曜日（茶）○第二木曜日（花）○第二土（茶）○第三木曜日（花茶）（茶）○第三土曜日（花、茶）○第四木曜日（花）○第四土曜日（茶）○毎月曜日女禮式○第八條　入舍するを得るものは年齡十二年以上の女子にして品行方正なるものに限るべし○第九條　保証人は丁年以上にして東京府下に居住し一家計を立つるものに限るべし○第十條　本舍は修業者の便を計り寄宿を許そべし

尙本紙に掲げざる舍生心得寄宿舍規則等は別に細則を以て之を定む

東京市麴町區有樂町三丁目一番地

靜修舍

私立大日本婦人衛生會事務所
東京下谷區練塀町四十三番地
本會雜誌編纂委員　太田いく子
　　　　　　　　　鈴木まさ子

發行所　東京下谷區練塀町四十三番地　私立大日本婦人衛生會
編輯兼發行人　東京麴町區三番町六十七番地　巖本善治
印刷人　東京麴町區上二番町十八番地　八木吉六

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN